

GCOE 国際会議出席報告書（外国旅費用）T1220

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	(あだち さとし) 足立 智	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
		原ハド・D3	永江 知文
Tel,Fax e-mail	Tel : 3832, Fax : 3887, E-mail : adachi@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Measurement of Radiative Widths of Excited States Above the α -Decay Threshold in ^{12}C		
著者名	S. Adachi <i>et al.</i> (Kyoto University, Japan)		
会議名称 ・開催期間	International Workshop on Nuclear Spectroscopy Frontiers at Magnetic Spectrometers 自 2012年 11月 19日 ~ 至 2012年 11月 22日		
開催地 (国、市)	南アフリカ共和国、ステレンボッシュ		
出張期間	自 2012年 11月 17日 ~ 至 2012年 11月 26日		
国別参加者数	発表者(南アフリカ : 12、ドイツ : 11、日本 : 6、アメリカ : 2、イギリス : 1、ノルウェー : 1、スウェーデン : 1)、参加者約 50人		
発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)			
<p><口頭発表></p> <p>発表は、^{12}C 原子核の稀ガンマ崩壊幅測定実験の測定結果と、その測定方法・統計精度を改善した次期測定計画について、11月21日午後のセッションで行った。</p> <p>本測定の意義について、ドイツ・ダルムシュタット工科大学の Peter 氏から高温 ($T > 10^9\text{K}$) での ^{12}C 生成が本当に元素合成に影響するののかとの質問があった。これについては、該当温度と、対応する崩壊エネルギー閾値の関係から測定の必要性について納得していた。また、測定する角度から運動学に制限をかけることにより、背景事象を抑制する方法については、発表時間の関係上説明が丁寧にはできなかったが、質問に対する応答により聴衆はある程度理解したと思われる。</p> <p>その他としては、本実験は ^{12}C 原子核のクラスター構造、また宇宙での元素合成の観点から宇宙物理学とも関連している。本発表の同じセッションではクラスター構造、元素合成における原子核反応の反応率の測定の口頭発表がなされ、本発表と相互に関連していた。会議前には私が知らなかった他の発表者からも、本発表が紹介されていたなど、相互に意見交換することができ、非常に有用であった。</p>			